

带状疱疹予防接種説明書

带状疱疹予防接種の効果

带状疱疹は、水痘带状疱疹ウイルスが再活性化することにより、痛みを伴う水疱（水ぶくれ）が現れる皮膚の病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「带状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあり、70歳代で発症する方が最も多くなっています。予防接種を受けることで、带状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。

■各ワクチンの接種回数・接種方法・接種スケジュール・接種条件

	生ワクチン（ビケン）	不活化ワクチン（シグリックS）
接種回数	1回	2回
	—	通常は、2か月以上の間隔を置いて2回接種。
接種できない方	病気や治療によって免疫が低下している方は接種出来ません。	免疫の状態に関わらず接種可能です。
接種に注意が必要な方	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6か月以上置いて接種してください。	筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方は注意が必要です。

■ワクチンの効果

	生ワクチン（ビケン）	不活化ワクチン（シグリックS）
接種1年後	6割程度の予防効果	9割以上の予防効果
接種5年度	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
接種10年後	—	7割程度の予防効果

※带状疱疹後神経痛に対しては、接種後3年時点で、生ワクチンは6割程度、不活化ワクチンは9割以上と報告されています。

予防接種を受けるにあたっての注意点

- (1) 本説明書をよく読んで、予防接種の必要性や副反応についてよく理解しましょう。
- (2) 過去に带状疱疹予防接種を完了された方は、接種案内はがきが届いている場合でも今回の予防接種の対象外となりますので、ご注意ください。
- (3) 予診票は接種する医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が責任を持って記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。
- (4) 予防接種を受けた後は、接種部位を清潔に保ち、当日は過激な運動は避けましょう。接種当日の入浴は差し支えありません。ただし注射したところをこすらないでください。
- (5) 接種後に発熱したり、接種した部位が腫れたり、赤くなったりすることがありますが、一般にその症状は軽く、通常、数日中に消失します。
- (6) 接種後は自らの健康管理に注意し、もし、高熱や体調の変化、その他局所の異常反応に気づいた場合は、ただちに医師の診療を受けてください。
- (7) 接種後は各自で予防接種済証を大切に保管していただくようお願いいたします。

2つのワクチンを共通して受けることができない人

明らかに発熱のある人、重篤な急性疾患にかかっている人、心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する人、ワクチンに含まれる成分によってアレルギー反応を起こしたことがある人、その他医師によって予防接種を受けることが不適当な状態と判断された人は、予防接種を受けることができません。